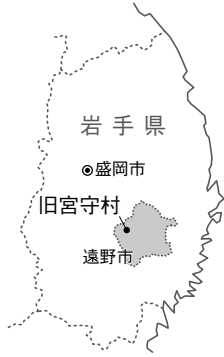


# 地元の果物活用

## で 新ビジネス



### 庭先の放置キウイ、買い取ります

#### 集落営農のジュース加工が地域を変えた

桶田陽子 (岩手県遠野市・農) 宮守川上流生産組合

#### 基盤整備を機に集落営農法人を設立

農事組合法人・宮守川上流生産組合は、岩手県遠野市の山あいの3集落・全農家182戸からなる集落営農法人です。

30年ほど前、この地域の大半は第2種兼業の小規模農家で、5a区画の水田が8割を占めていました。農道も幅員が2m前後と狭いため大型機械の導入が難しく、担い手不足・高齢化・耕作放棄地な

ど、地域農業の存続が危うい状況でした。

そのため、1994年から基盤整備事業を実施し、1600枚ほどの水田を350枚に集約。2年後には「一集落一農場」の構想の下、全員参加型の集落営農を目指す「宮守川上流生産組合」を設立しました(2004年に法人化)。

組合では、水稲の作業受託や大豆の栽培などに取り組むほか、地域内の余剰労働力を活かした経営の多角化に力を入れ





**農事組合法人 宮守川上流生産組合**  
 経営面積 水稲45ha、ダイズ16ha、  
 ハウスミニトマト40a  
 従業員 営農部5人、加工部8人  
 2018年度売り上げ 約1億6000万円



宮守川の上流にあることから「上流さん」と呼ばれる地域。  
 総面積の8割は山林・原野が占め、小さい棚田が広がる

ています。02年には直売所の設置に合わせ、組合内部に産直部会やブルーベリー部会を組織。07年からは施設園芸のミニトマト栽培も導入し、経営基盤の強化と地域の雇用創出を目指してきました。

**農産加工で年間9000万円を稼ぐ**

法人の経営を支えるうえで重要なのが農産加工事業です。自前の加工所を建て、今年で9年目となりました。きっかけは、ミニトマトの規格外品活用としてジュース加工を委託していた市内の加工所が老朽化で閉鎖となったことでした。

建設資金は、県と市の6次産業化関連の補助金を活用し、少量多品目に対応できる設備を整えました。現在は、組合員のトマトやニンジン、ブルーベリーをはじめ、近隣市町村からリンゴやヤマブドウを仕入れるなどして、ジュース8種類、ジャム3種類を中心に製造・販売しています。13年には、国の6次産業総合化事業計画の認定を受け、地域特産の「どぶろく」の製造所も新しく建てました。また、農家からの受託加工ももう一つの柱で、市内だけでなく、盛岡市や花巻市など県内からの依頼も受けています。

加工事業の昨年度の売り上げは、約9000万円（法人全体の売り上げの56%）。内訳はジュース・ジャム類、ドブろく、受託加工で、それぞれが3分の1の割合です。

**地域農産物に限って商品化**

自社商品は、小ロットの製造で価格が高くなることから、一般的な飲料品と差別化を図るため、原料を地域農産物に限って商品化してきました。

3年前に商品化したキウイのジュースもその一つです。近年、テレビのCMなどでキウイの機能が謳われ始め、スーパーでは果物棚の目立つ場所に置かれるようになってきていたことに、加工所で働く女性たちが着目しました。

遠野市内では、30年ほど前から農家が軒先にキウイを植えだし、その後口コミで栽培が少しずつ広がっていきました。秋に収穫して家の中で追熟させたキウイが直売所によく並んだものです。しかし、なかには追熟させても酸味が強かったり、自家用にも余ってしまうことが多いため、庭に放置されたままになることもありました。そこで、そうしたキウイを加工所